

アースウォッチ・ジャパン  
調査プログラム解説書 2026

## 種子島のアカウミガメ保全

松沢 慶将

日本ウミガメ協議会会長/四国水族館館長



チーム 1 6月11日(木)～6月13日(土)

チーム 2 6月13日(土)～6月15日(月)

チーム 3 6月18日(木)～6月20日(土)

チーム 4 6月20日(土)～6月22日(月)

募集人数：各 12 名

認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科 フードサイエンス棟

Tel. 03-3830-0688 Fax 03-3830-0061

e-mail: [info@earthwatch.jp](mailto:info@earthwatch.jp) URL: <https://www.earthwatch.jp>

## 目次

1. アースウォッチ・ジャパンからのメッセージ	3
2. 支援企業からのメッセージ	3
3. 主任研究者からのメッセージ	3
4. 集合・解散時刻及び場所、交通案内	4
5. 宿泊、食事等	5
6. 装備について	5
7. スケジュール	6
8. 調査地について	6
9. 調査の目的・意義	7
10. 活動方法とボランティアの作業	7
11. 研究成果の応用	8
12. 安全確保の為の予定変更について	9
13. 医療機関	9
14. 調査中の危険や留意点について	9
15. 傷害保険	9
16. 研究者の紹介	9
17. 参考書籍、文献、用語の説明など	10
18. ご協力をお願い	10
19. 情報の取り扱いについて	11

### 情報の取り扱いについて

- ・ この調査プログラムから得られる経験や知識、写真、動画などは、参加者の家族や友人、ローカルメディア、フォーラム等で共有することはできます。(もちろん肖像権などには十分なお配慮をお願いします)
- ・ しかし、調査の間に収集・共有された全ての情報、特に科学的データやレクチャー時に研究者が使用したスライドなどは、研究者の知的財産となることをご理解ください。
- ・ 論文への使用や自らの利益、第三者の学問やビジネスへの使用のために、主任研究者の許可なしに、これらの情報を盗用・公開することを禁止します。  
特に調査現地の人たちに取材したデータや、フィールドで収集した科学的なデータは、主任研究者の知的財産となることを理解し、その扱いには厳重に注意をしてください。
- ・ 主任研究者は、科学的なデータや特定の研究に関連した情報を共有することに対して制限を加える権利を持っています。もし参加者が学術上有益なデータやその関連情報を使用・公開する場合は、必ず書面で許可を得るか、アースウォッチを通して主任研究者に確認してください。
- ・ **希少生物の捕獲を防止するために、撮影した写真を公開する場合には GPS による位置情報を削除するほか、撮影場所が分かるような情報は公開しないなどのご配慮をお願いします。**
- ・ アースウォッチは、調査プログラムに関連して撮影した写真及び提供いただいた写真の利用についての権限を有しています。

## 1. アースウォッチ・ジャパンからのメッセージ

世界各地の海で、熱帯雨林で、草原で、数多くの研究者が長く、そして地道な調査に取り組んでいます。アースウォッチは、このようなフィールドと一般市民をつなぐことによって、自然環境やそこに生息する生物の変化に対する認識や理解を深め、持続可能な環境を維持するための行動に結びつけるために生まれました。

この「種子島のアカウミガメ保全」調査は、絶滅が危惧されているアカウミガメの生態を明らかにする活動への参加を通じて、海洋保全の一端を学んでいただくプログラムです。

短い期間ではありますが、この調査を通して、自然の多様なつながりや自然と人との関わりについて実地で学び、そこで得た体験を多くの方と共有していただければ幸いです。

認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン

## 2. 支援企業からのメッセージ

INPEX は「エネルギーの安定供給」を目指し、天然ガス/LNG 事業をオペレーターとして上流から下流まで一貫通貫で行っている世界でも数少ないエネルギー会社の一つです。

弊社は、健全な地球環境の維持と生物多様性の保全に対する責任を深く理解し、海洋生物の多様性を守ることは、豊かな海洋環境を保つ上で、非常に重要な課題と認識し、私たちの事業活動とも深くかかわりのあるテーマと考えております。その一環として、弊社は2025年からアカウミガメの保全活動に参画することを決定致しました。

生物多様性の保全は、当社のサステナビリティに関する重要課題（マテリアリティ）であり、また INPEX グループの掲げる以下の社会貢献活動基本方針にもつながります。

「弊社は、グローバルなエネルギー供給企業として社会の要請と信頼に応えるべく、ステークホルダーとの対話を通じ、社会的課題の解決や地域社会の発展に資する社会貢献活動を積極的に推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。」

これらの観点から、INPEX グループは、2025年よりアースウォッチ・ジャパンの主催する本調査の趣旨に賛同し、調査に係る費用面での支援と社員ボランティアの派遣を行うことと致しました。

今後は、アースウォッチ・ジャパン、研究者の皆様、そしてボランティアとしてご参加いただく皆様と共に、生物多様性の保全と持続可能な社会の実現に向けて支援を行って参ります。

株式会社 INPEX  
経営企画ユニット

## 3. 主任研究者からのメッセージ



いま、北太平洋のアカウミガメは絶滅の危機に瀕しています。成長海域にあたる米国やメキシコでは既に莫大な国費を投じて手厚い保全管理措置がとられています。唯一の産卵地である我が国でも、速やかに周辺海域における本種の生態と脅威を解明し、効果的な手当てをしていくことが求められています。

国内の主な産卵地では、メスに標識を装着して個体識別する調査が長年継続されており、数年後に再び同じ砂浜に産卵に訪れるメスは全体の約3割に過ぎない一方で、他の産卵地で見つかる例はほとんどないことが分かってきています。これと同様の結果が、国内第2の産卵規模を誇る種子島で2015年より実施した本プログラムによる個体識別調査からも得られたことから、メスの回帰率の低さは死亡率の高さによることが浮き彫りになってきました。とはいえ、調査は産卵最盛期の8日間に限られるため、今後も継続して回帰率の精度を高めていく必要があります。また、海における脅威を特定するため、産卵後の回遊生態を明らかにしていく必要があります。

そこで、本研究では、引き続き種子島において産卵地を夜間踏査し、産卵個体を対象に標識を用いた個体識別調査を実施するとともに、GSPアルゴス送信機を産卵後のメスに装着して衛星追跡していきます。かつて浦島太郎を産んだ国の矜持として、北太平洋からアカウミガメを絶滅させるわけにはいきません。梅雨時期の夜間調査は肉体的にもハードではありますが、どうか皆様のお力をお貸しください。宜しくお願いします。

日本ウミガメ協議会会長  
四国水族館館長  
松沢 慶将

#### 4. 集合・解散時刻及び場所、交通案内

##### 集合：種子島空港ロビー

チーム1 6月11日(木) 11時50分 参考：JAL3763便(鹿児島11:00->種子島11:40)  
チーム2 6月13日(土) 同上  
チーム3 6月18日(木) 同上  
チーム4 6月20日(土) 同上

※集合時の連絡用に、携帯電話番号は必ず事務局までご連絡ください。

※参加者には、当日の緊急連絡先を記入した調査プログラム解説書を別途お送り致します。

##### 解散：種子島空港ロビー

チーム1 6月13日(土) 11時15分 参考：JAL3764便(種子島12:10->鹿児島12:45)  
チーム2 6月15日(月) 同上  
チーム3 6月20日(土) 同上  
チーム4 6月22日(月) 同上

**交通案内：情報は必ず、ご自身で確認してください。**

**交通案内(参考)：発着情報は必ず、ご自身で確認してください。**

鹿児島から飛行機

往路：鹿児島11:00発 ->種子島11:40着 JAL3763

復路：種子島12:10発 ->鹿児島12:45着 JAL3764

鹿児島から船

往路：鹿児島港07:30発 ->西之表港09:05着 トッピー&ロケット111

西之表港からの移動はタクシーをご利用ください。所要時間約30分

復路：西之表港14:15発 ->鹿児島港15:55着 トッピー&ロケット128

空港からの移動はタクシーをご利用ください。

高速船利用の方は事務局までお知らせください。

##### 高速船情報

トッピー&ロケット <http://www.tykousoku.jp> 予約センター 0570-004015

高速船「トッピー&ロケット」の運賃は片道11,000円です。

##### \*鹿児島空港—種子島空港 航空便欠航の場合 (必ずお読みください)

天候や種子島空港の視界不良等により、搭乗便が欠航になったり、条件付き運行となる場合があります。これまでの調査で毎年1回から2回程度はそのような状況に遭遇しました。

※航空便欠航の場合の集合・解散場所や手段については、参加者用解説書に詳細を記載します。

欠航の場合は、鹿児島港から高速船(トッピー&ロケット)を利用してください。

鹿児島空港から連絡バスで鹿児島港高速船ターミナルに移動(運賃は片道1500円、所要時間約1時間)するか、タクシーをご利用ください。

鹿児島空港連絡バス <http://nangoku-kotsu.com/ashuttle>

時刻表 [https://nangoku-kotsu.com/wp-content/uploads/pdf/airport\\_2025\\_1001.pdf](https://nangoku-kotsu.com/wp-content/uploads/pdf/airport_2025_1001.pdf)

## 5. 宿泊、食事等

### 宿泊施設：チーム 1~4

施設名	ホテルサンダルウッド
住所	〒891-3701 鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 525
	TEL : 0997-26-0015
	URL: <a href="http://www.hotel-sandalwood.com">http://www.hotel-sandalwood.com</a>

※ 男女に分かれての相部屋となります。2 名から 3 名で一部屋をご利用いただく場合もありますことを、予めご了承ください。

**食事等：**宿でのメニューは、すべてプリフィクスです。飲み物は各自でご負担いただきます。朝食はつきませんので、朝食や夜食が必要な方、また特別食が必要な方は、持参いただくか、集合後の移動の途中で買い物ができます。お部屋には給湯ポットがあります。

1日目	昼食（中種子のレストラン）	各自お支払いください。
	夕食（宿）	プログラム費用に含まれます。（飲み物をオーダーした場合は、各自お支払いください）
2日目	昼食（宿）	
	夕食（宿）	

## 6. 装備について

### 必携品

	<b>本プログラム解説書と筆記用具</b>
	<b>沢タビ、ダイビングブーツ等</b> 浜辺を長距離（片道約 4Km を往復）歩きます。ところどころ、海に向かって川が流れており、歩いて渡りますので、くるぶしまで覆える沢タビ、ダイビングブーツ等が必要です。長靴でも構いませんが、水位が膝下位まである所もあり、浸水して歩きにくくなることもあります。その点を踏まえてご準備ください。
	<b>長袖・長ズボン（夜間の冷え対策と虫除け）、ジャージやラッシュガード等</b> 夜間の調査時は冷え込むことがあります。また、ガジャブ（ブユ）と呼ばれる吸血性の小さな虫がたくさん飛んでいることがあり、刺されると非常に痒く、腫れる場合がありますので、長袖・長ズボンが適切です。 また、ガジャブ対策に、ハッカ油スプレーまたは虫除けスプレーを用意しておくとい良いでしょう。
	<b>雨具（カッパ上下）</b> 調査は、雨天でも実施しますので、雨具は必須です。傘の使用は、雨音によりウミガメを驚かすことになるため、禁止です。
	<b>小型のデイバッグ</b> 浜辺を歩く際は、両手を開けておく必要がありますので、携行品を入れて背負えるデイバッグなどを用意してください。調査器具を分担して持ち運びいただくこともあります。防水加工のあるものが望ましいです。あるいは、急な雨でも中のものが濡れない様にデイバッグの中にジップロック等で防水すると良いでしょう。
	<b>サンダル</b> 車で移動中の履き替え用としてご用意されると良いでしょう。
	<b>懐中電灯又はペンライト（赤色）</b> ウミガメへの影響を最小限にするため、赤色フィルム（研究者が準備します）を貼って使用していただきます。明るすぎないものをご用意ください。また、落下や紛失防止の工夫（紐をつけるなど）をしてください。駐車場から調査地へ移動する際に懐中電灯を使用できますが、ウミガメは光を忌避するため、調査中は、作業と記録のため以外には、原則的にライトは使用できません。標識番号の確認、標識の装着、甲長の計測、およびその記録に、ペンライトが必要になります。移動中にヘッドランプは使用しないでください。ヘッドランプを持参する場合は、手持ちにして、光が周囲に拡散しないよう気をつけてご利用ください。

	<b>飲み物</b> 長時間歩きますので必ず持参してください。ペットボトル飲料は、宿の自販機やコンビニ等でも購入可能です。
	<b>タオル</b> 湿度が高いので、ご用意されると良いでしょう。
	<b>着替え一式</b>
	<b>健康保険証</b>

### 【宿泊施設の客室備品（参考）】要確認

シャンプー、リンス、ボディーシャンプー、ドライヤー、歯ブラシ、タオル、パジャマ

### あると便利なもの

	<b>軍手</b> ウミガメに触ることがあります。
	<b>ウェットティッシュ</b>
	<b>医薬品</b> (虫刺され薬・絆創膏・胃腸薬等)
	<b>帽子とサングラス</b> (日中の浜辺歩き用)
	<b>水筒</b>
	<b>カメラ(夜間調査時は使用不可)</b> 調査中は、カメラのフラッシュは使用できません。また、常時、歩いていることが多いため、三脚などを使用した長時間露光での撮影も調査中はできません。宿の近くで星空を撮影することは可能です。
	<b>ポータブルトイレと紙、密閉袋</b> 夜間の浜辺の調査は4時間以上かかる場合がありますが、トイレはありません。緊急の場合は、自然の中で行わなければなりませんので、必要と思われる方はご用意ください。

### ◇携帯電話に関する注意

携帯電話は、夜間調査時はマナーモードにし、輝度もできるだけ押さえてください。

ウミガメは光に敏感です。どうしても画面を見なければいけない場合は、なるべく光が漏れない様工夫してください。

## 7. スケジュール

\*参加者には、オンラインによる事前説明会を5月27日(水)19:00から予定しています。

詳細は追ってご案内します。

### ◇主なスケジュール

- 1日目 種子島空港集合後、昼食・調査地の下見、夕食・レクチャーの後、浜辺で調査
- 2日目 午前中フリー、昼食後種子島宇宙センター見学、レクチャー・夕食の後、浜辺で調査
- 3日目 調査のまとめと質疑応答の後、種子島空港にて解散

※参加者には、当日の詳細スケジュールを記載した調査プログラム解説書参加者用を別途お送り致します。

## 8. 調査地について

鹿児島県大隅諸島の一つである種子島は鉄砲伝来の地として有名です。南北に細長い形をした緑豊かな島の東南端の海岸線には種子島宇宙センターがあります。また、良好なサーフィンスポットがたくさんあり、多くのサーファーが訪れる場所であり、他のマリンスポーツも盛んに行われています。調査地の長浜は島の西側に位置する全長約12Kmの砂浜です。



## 9. 調査の目的・意義

本研究で対象とするアカウミガメ (*Caretta caretta*) は、世界中の温帯・亜熱帯域に生息する海棲爬虫類で、国際自然保護連合版レッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類に位置づけられ、世界的に絶滅が危惧されています。このうち、日本列島を唯一の産卵地としている北太平洋個体群も、20世紀後半に産卵回数が大きく減ったことから、環境省による「日本版レッドデータブック」では絶滅危惧ⅠB種に指定されています。

絶滅が危惧される本種北太平洋個体群を適切に保全するためには、その生態を様々な側面から解明し、脅威となっている要因を探り出すことが重要となります。これに関連して、今、特に注目すべきポイントの一つが、成熟したメスの生残率と産卵後の回遊経路です。

屋久島や宮崎、徳島、和歌山などの産卵地では、長年にわたり、研究者と保護団体が、産卵個体に標識を装着して個体識別する調査を継続してきました。その結果、メスは一度の産卵期に、2～3週間おきに同じ砂浜で数回繰り返し産卵することや、そのうち、数年後に同じ砂浜を訪れて産卵するものは、全体の約3割に過ぎないことや、その一方で、他の産卵地で見つかる例はほとんどないことが明らかになってきました。このことは、産卵後に多くのメスが死亡しているか、そうでなければ、数年後に再び繁殖するときに、既に標識が脱落してしまっているか、前回とは別の、個体識別調査が行われていない砂浜に産卵地を変更してしまっているかということの意味します。いずれにしても、従来の定説を大きく覆すことになるうえ、本種の保全と生態を考える上で、重要な知見となります。

このような背景から、本プログラムでは国内で二番目の産卵規模を誇りながら、個体識別調査が実施されていなかった種子島こそ、本種の低い回帰率の謎を解くためのカギを握ると考え、2015年から毎年産卵最盛期に夜間踏査を実施して、10年間で、230個体を識別してきました。その結果、他の産卵地における結果と同様に、他の産卵地からの移入はなく、また回帰率が2～3割程度にとどまることが明らかになりました。ここから、回帰率の低さは、死亡率の高さによることが見えてきました。とはいえ、種子島における調査は、産卵最盛期のわずか8日間に過ぎません。より正確な回帰率の算定には継続調査が必要です。また、産卵後の高い死亡率につながる要因を紐解いていくために、産卵後のメスの背中に電波発信機を装着して、衛星追跡をすることで、産卵後の回遊経路について探っていきます。特に、漁業による混獲の影響を念頭に、人為的脅威とウミガメの移動が交錯する海域をあぶり出していきます。

## 10. 活動方法とボランティアの作業

### ■活動方法

本プログラムで最終的に目指すのは、アカウミガメ北太平洋個体群における成熟後のメスの平均産卵回数です。これは、絶滅が危惧される本種の個体群動態を理解し、絶滅の危険度を評価していく上で欠くことができない情報です。

これを求めるために、他の砂浜における識別個体数や回帰率、回帰年数、砂浜ごとの産卵頻度、1頭1産卵期あたりの平均産卵回数などの既知の情報に、今回、あらたに種子島長浜海岸における個体識別調査により明らかにされる、通常タイプの標識の脱落率、他の産卵地で標識を装着された個体の移入率、種子島で産卵したメスの回帰率といったデータをあわせて、総合的に解析していきます。

個体識別調査では、島の西部に位置する長さ 12 キロメートルの長浜を 4 チームに分かれて、砂浜を歩いて闇の中でウミガメを探します。発見次第、その行動を阻害しないように慎重に接近し、四肢に標識や体内埋め込み型の標識がないか確認します。標識がない場合には、新たに標識を装着します。また、専用のノギスを用いて、背甲の長さや幅を計測します。加えて、いくつかのメスの背中には、エポキシ系接着剤を用いて、GPS 機能付きのアルゴス送信機を装着します。

### アルゴスシステムを利用したウミガメの追跡

GPS 機能付きのアルゴス送信機（極軌道を周回する衛星にデータを送るプラットフォーム）をウミガメの背甲に装着して、産卵期間中の回遊経路の追跡を実施します。装着後は、Web のシステムにアクセスしてウミガメの移動経路を確認します。

#### ■ ボランティアの作業

- A) 班ごとに研究員やサポートスタッフと一緒に砂浜を歩き、闇の中で足跡を頼りにウミガメを探します。ウミガメは可視光に敏感なので赤外線暗視スコープも利用します。
- B) ウミガメを見つけたら、行動を阻害しないように注意しながら、慎重に接近し、四肢に標識や体内埋め込み型の標識を確認します（通常は産卵開始以降か海へ戻る直前です）。
- C) 標識がない場合には、産卵終了後か海へ戻る直前に新たに標識を装着します。
- D) 専用のノギスを用いて、背甲の長さや幅を計測します。暗闇の中で行われるこの一連の作業の中において、記録をつけたり、調査器具の準備をしたりします。
- E) また、野外調査終了後に研究拠点となる宿泊施設でデータのコンピュータへの入力整理などを必要に応じて行います。
- F) 可能な場合は、個体にGPS付き送信機を装着します。



装着されたタグ



背甲の測定をしている所



浜歩きには沢たび・ダイビングブーツをご用意ください



装備の一例

※調査の方法については事前にガイダンスを行います。ボランティアは、調査に関する知識や特別な技能はありません。

## 11. 研究成果の応用

今回の調査・研究の最大の目的は、種子島で産卵するメスのアカウミガメを継続的に個体識別することで、その回帰率から死亡率および生涯産卵数を算定するとともに、衛星追跡により本種の回遊経路と人

為的脅威が交錯する危険海域を炙り出すことです。ここで得られる成果は、資源量推定に不可欠な基礎資料となり、国際自然保護連合や環境省のレッドリストの改編時に、アカウミガメ北太平洋個体群の絶滅の危険度の評価に利用されます。また、日米墨3カ国政府が協力して作成中の、本種北太平洋個体群の包括的かつ具体的な保全政策計画にも盛り込まれます。さらに、研究の成果は爬虫類や海洋生物、保全生物に関する国内外の学会やシンポジウム等で発表するほか、書籍の執筆、メディアへのリリースと取材対応、市民参加型セミナーなどを通じて、社会に広く発信していきます。

## 12. 安全確保の為の予定変更について

◇やむを得ない事情による調査中止の場合など、実施に関する注意事項◇

調査は基本的に雨天でも行われます。しかし、台風や雷、集中豪雨など、調査地に入ることがボランティアにとって危険と研究者が判断した場合には、調査チームの安全確保のためやむを得ず野外調査を中止することがあります。その場合は、研究者の指示に従ってください。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

- ・中止が予想される場合：台風や強雨などの影響で、調査が困難になると研究者が事前に判断できた場合は、中止や予定の変更を事務局からご連絡いたします。
- ・調査期間中の天候の急変について：天候の急変など、アースウォッチの管理できない事由により調査の安全確保が困難になると研究者が判断した場合、調査を早めに切り上げ、データ整理などの他の作業に切り替えることがあります。その場合は、研究者の指示に従ってください。  
(そのほか、詳細は免責承諾書の記載事項もご参照ください。)

## 13. 医療機関

病 院	住 所	電 話	URL
公立種子島病院	鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 1700 番地 22	0997-26-1230	<a href="https://tanegashima-hospital.com">https://tanegashima-hospital.com</a>
種子島医療センター	鹿児島県西之表市西之表 7463 番地	0997-22-0960	<a href="https://tanegashima-mc.jp">https://tanegashima-mc.jp</a>

救急箱は用意致しますが、ご自分の必要な常備薬はご用意をお願いします。

## 14. 調査中の危険や留意点について

- ・ウミガメは光に敏感です。どうしても懐中電灯や携帯電話を使用しなければならない場合には、光が海側やウミガメに当たらないよう注意してください。
- ・夜の砂浜を歩いて調査を行います。砂が細かいため、ハードタイプのコンタクトレンズの使用は控えた方がよいでしょう。トイレはありません。緊急の場合は、自然の中で行わなければなりませんので、調査前にお済ませください。

## 15. 傷害保険

アースウォッチのボランティア活動中に万一発生する傷害（病気は対象となりません）に対して保険が参加者全員に手配されています。補償（天災Aプラン）の詳細については、下記をご覧ください。

<http://www.tokyo-fk.com/volunteer/document/V1-volunteer2026.pdf>

## 16. 研究者の紹介

◇主任研究者

松沢慶将：日本ウミガメ協議会会長  
四国水族館館長

専門は海洋生物環境学で、特にウミガメ類の繁殖生態について研究。  
ウミガメ類を取り巻く自然環境の保全にも取り組む。

◇主任研究者

**石原 孝**：NPO法人Turtle Crew理事、日本ウミガメ協議会理事、IUCN 種の保存委員会Marine Turtle Specialist Group 共同副議長（東アジア担当）  
専門は海洋生態学。特にアカウミガメが成熟していく過程を研究している。また、事故死するウミガメを減らすための研究にも取り組む。

◇協働研究者

**水野康次郎**：奄美.asia 代表、奄美海洋生物研究会 副代表、NPO法人Turtle Crew理事、日本ウミガメ協議会監事  
専門は文化人類学で、現在では奄美群島を中心に、人とウミガメや海洋動物などの繋がりを研究している。元日本ウミガメ協議会事務局長。

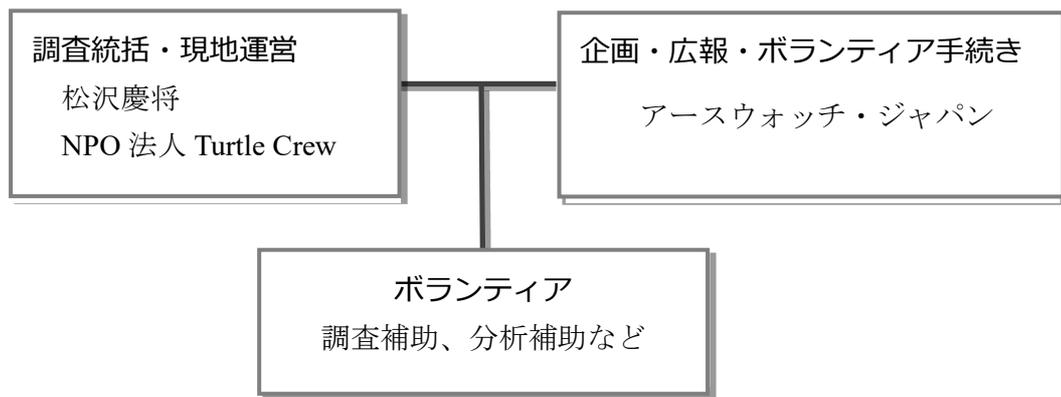
◇協力

**水谷志津江**：NPO法人Turtle Crew理事長  
種子島在住で、産卵シーズンには砂浜踏査でウミガメの産卵痕跡調査を継続中。  
他に、地元の子供達へのうみがめ教育も実施。

**久米満晴**：NPO法人Turtle Crew副理事長  
種子島にて漁師と写真家をしながら混獲されるウミガメに興味を持ちTurtle Crew設立。  
現在は奄美大島を拠点にヨット暮らしを始め、ご近所さんにはウミガメがいる。

**増山涼子**：日本ウミガメ協議会理事、NPO法人Turtle Crew理事、西之表市ウミガメ保護監視員  
元水族館職員。現在では西之表市のウミガメ調査員として活動。

◇調査の体制◇



17. 参考書籍、文献、用語の説明など

- ① 「ウミガメの自然誌」（亀崎直樹編）東京大学出版会
- ② 「屋久島発 うみがめのなみだ」（大牟田一美・熊澤秀俊）海洋工学研究所出版部
- ③ 「ウミガメは減っているか」紀伊半島ウミガメ情報交換会・日本ウミガメ協議会
- ④ 日本ウミガメ協議会 HP <http://www.umigame.org/>
- ⑤ 「日本のウミガメ保存の課題と展望」（松沢）  
<https://www.ows-npo.org/media/backno/tokushu57forWeb.pdf>

18. ご協力をお願い

アンケートにご協力ください

本調査参加後、アンケートをお送りしますので、ご意見、ご感想を事務局にお寄せください。今後の調査運営の向上に役立てさせていただきます。

### お写真をお寄せください

みなさんがボランティア活動中に撮影した写真を、体験したコメントとともにご提供ください。いただいたお写真は、アースウォッチの広報に役立てさせていただきます。

## 19. 情報の取り扱いについて

- ・この調査プログラムから得られる経験や知識、写真、動画等は、参加者の家族や友人、ローカルメディア等で共有することはできます。(もちろん肖像権などには十分なお配慮をお願いします)
- ・しかし、調査の間に収集・共有された全ての情報、特に科学的データやレクチャー時に研究者が使用したスライドなどは、研究者の知的財産となることをご理解ください。
- ・論文への使用や自らの利益、第三者の学問やビジネスへの使用のために、主任研究者の許可なしに、これらの情報を盗用・公開することを禁止します。  
特に調査現地の人たちに取材したデータや、フィールドで収集した科学的なデータは、主任研究者の知的財産となることを理解し、その扱いには厳重に注意をしてください。
- ・主任研究者は、科学的なデータや特定の研究に関連した情報を共有することに対して制限を加える権利を持っています。もし参加者が学術上有益なデータやその関連情報を使用・公開する場合は、必ず書面で許可を得るか、アースウォッチを通して主任研究者に確認してください。
- ・希少生物の捕獲を防止するために、撮影した写真を公開する場合にはGPSによる位置情報を削除するほか、撮影場所が分かるような情報は公開しないなどのご配慮をお願いします。
- ・アースウォッチは、調査プログラムに関連して撮影した写真及び提供いただいた写真の利用についての権限を有しています。

※これは、調査プログラム解説書のweb版です。

参加者には、緊急連絡先やスケジュール詳細が記載された解説書を別途送付致します。

アースウォッチ・ジャパン事務局

アースウォッチ・ジャパンの活動は、

国連のSDGs「世界を変えるための17の目標」のうち、以下の項目達成に寄与します。



30by30の実現に向け、国内調査プログラムを通じて、生物多様性の保全や教育を支援していきます。



この調査は、株式会社 INPEX のご支援を受けて実施されます。

2026/03/10 更新